

アンケート調査報告書について

ページ数	ご意見	事務局見解
① 5	<p>前回の意見でもありましたが、「80歳以上」のくくりではなく、80～84、85～89、90～94、95～のようにすれば、よりニーズの把握ができたのかもしれないと思います。</p>	<p>ニーズ調査（一般）は3ページ、ニーズ調査（要支援）は57ページ、介護実態調査は111ページにあるとおりの人数分布となっています。</p> <p>一般の方は84歳で区切ってしまうと、「85歳以上」の方が少数となり他の年齢区分とバランスが悪くなるため、「80歳以上」とさせていただきました。</p> <p>要支援の方は80～84歳、85～89歳の区分の方が多いため、85歳を区切りとするよう「65～74歳、75～84歳、85歳以上」と10歳刻みにしております。</p> <p>介護の方も要支援の方と同様です。</p>
② 10	<p>「転倒に対する不安」他地域と比べ不安な方が多いのでしょうか。</p>	<p>全国統一の質問で、「見える化」システムという国のサイトに調査結果を登録することで、全国との比較ができます。現在、登録のためのデータ整備中ですので、結果が出たらご報告します。</p>
③ 11	<p>買い物が町外が多いです。地域の特徴ですね。</p>	<p>皆さまご承知の通り、町内のスーパーは2店舗、ドラッグストアが1店舗であり、隣市に入ればすぐにより大きなスーパーがあります。また、隣市の送迎付きのスーパーを利用される方もいらっしゃると思います。</p>
④ 31	<p>企画運営として参加してもよい方に期待したいですね。</p>	<p>30ページの「活動に前向きな方」348人に対し、31ページの「企画運営に前向きな方」182人と、企画運営に前向きな方の割合は高いです。こういった方々が活躍できるように支援を検討したいと思います。</p>

ページ数	ご意見	事務局見解
⑤ 56	リスク減の項目が多いです。一般高齢者への取り組みに期待します。	スポーツ庁の調査で、高齢者の体力が年々向上しているという結果が出ています。当町でも助け愛隊サークル数がこの3年で12団体→18団体と増えており、介護予防に取り組んでいる方が多くおられると感じています。また、41ページの「健康づくりや介護予防について知りたいこと」の回答では、一般の方で前回平均2.3項目選択されていたのが、今回は2.9項目に、要支援の方で前回平均2.9項目選択されていたのが、今回は3.4項目に増えており、関心の高さがうかがえます。
⑥ 93	地域包括支援センターの認知度が高くなっている。	包括の事業状況報告にもあるように、相談件数は年々増加しています。包括の存在が浸透しているように思います。
⑦ 110	「閉じこもり」のリスク減ですが、「身近な相談窓口」のあるおかげでしょうか。	⑤と同様、介護予防に関心のある方が増えていると実感しています。相談窓口との因果関係は不明ですが、⑥の包括の認知度も含め、「リスク減の方＝介護予防に取り組んでいる＝介護予防に関心がある＝相談窓口を把握している」という式は成り立つと思います。
⑧ 115	デイサービス利用において「入浴」が重要となっている。	町独自の質問項目なので、他地域との比較はできませんが、ケアプランを見る中で、「安全に入浴したい」というニーズに対しデイサービスの利用を進めている例を多く見ます。
⑨ 140	「問34介護を行う上で悩んでいることや困っていることがありますか」に対し、「将来の介護に不安がある」の回答が大きな割合を占めていますが、不安の具体的内容がわかればと思います。また、介護の不安が、同じ問34の別の項目と重複するようにも受け取れます。（例えば、介護者が高齢・病弱のため将来の介護に不安がある等）	112ページの「施設等への入所・入居の検討状況」、134ページの「主な介護者」、138ページの「不安を感じる介護等」との関連があるかもしれません。 問34とのクロス集計結果を添付します。（別紙A3横の「在宅介護実態調査」問3、問27、問29、問32と問34のクロス集計）

進捗状況報告について（自己評価シート）

ページ数	ご意見	事務局見解
A 8	給食サービス事業の変更後の効果や利用者ニーズ等で見えてきたものはありますか。	食事を配食に頼っている方が案外多いと思いました。本事業は「安否確認」を目的とした事業なので、デイに通っている方や、配達日にヘルパーが入っている場合は原則対象外ですが、変更前36名の利用者が、現在53名になっています。
B 8	緊急通報装置給付において、移行の効果はどのような点を予測されていますか。	乙訓消防の負担軽減が大きいと考えています。誤報や救急ではない通報で緊急対応の回線をふさいでしまうという課題がありました。民間事業者を經由して対応するほか「相談ボタン」が新たに使用できるようになり、不安解消と緊急時の適切な対応につながると考えています。
C 8	緊急通報事業のマンパワー不足とは具体的にどのような内容でしょうか	担当業務を兼務していることから、一人で業者との調整、利用者への通知、疑義対応、訪問、説明を行っていたという事情があり、時間を要しました。
D 4	助け愛隊サポーターの認知度の向上のための具体的な取組はどう検討されているのか、また再受講されている方がいるため、フォローアップ研修等は検討されていないのか。講座の効果検証はどのようにされているのか、仕組みづくりを検討してもらいたい。	認知度については、養成講座受講者募集の際に町広報に掲載する程度でした。今年度からは、町事業にサポーターに参加していただくことで、認知度を高めていきたいと考えています。 令和元年度は特別編として、サポーターに「OH!やまざき体操サポーター養成講座」「認知症予防講座」の案内をしています。また、サポーターのうち特定の講座を受講した方は「暮らし助け愛隊」（社協事業：ゴミ出し等の支援を行う）にご登録いただくようご案内しています。

ページ 数	ご意見	事務局見解
E 4・12	養成講座や小学生に対するサポーター講座を開催して彼らのモチベーションを上げて、実際に活躍する場の提供あるいは橋渡しがなければ気持ちは切れる。町内で使用していない古民家を再利用し、そういう場の提供はできないものか。	特に小学生に対する認知症サポーター養成講座は単発の授業であり、おっしゃる通り気持ちの持続は難しいかもしれませんが、授業を受けた児童が家に帰って家族に話してくれることを期待しているのと、知っているのと知らないのでは、いざという時の対応に差が出ると考えています。 使用していない古民家、というのは町で保有している物件はないため借りることになると思いますが、なかなかハードルが高い課題だと考えています。
F 12	認知症サポーター養成講座受講者数は累積では増加しているが、平成30年度から令和元年度（見込）では減少している。理由と今後の見通しはどのような予測でしょうか。	小学生を対象におこなっているため、児童数に左右されます。30年度は記載にもあるように町内金融機関から依頼があり、その分増加しました。ちなみに、29年度は125人でした。 令和元年6月に取りまとめられた認知症施策推進大綱でも、認知症に関する理解促進が勧められており、町内事業者への啓発も重要と考えています。
G 9・10	ケアプランチェックについて令和元年度222件と多数実施されていますが、チェック後の指導等は行われているのでしょうか。	実地指導の場では詳細の確認や改善点についてお伝えしています。その他、住宅改修や福祉用具の申請で出されたケアプランについては、詳細の確認を行っています。
H 9・10	住宅改修後の点検について2件とありますが、何件中の2件なのでしょう。訪問については施工後の訪問とありますが、申請後の訪問も必要では？許可を出す前に専門職との訪問を行い、不都合（改善点）があれば、施工内容の変更を指導することが可能かと思います。	64件中の2件です。作業療法士等のリハビリ専門職が同行したうえで施工前に訪問するのがベストと考えますが、庁内にリハビリ専門職がおらず他所へ派遣を依頼しなければならないため、施工の遅れにつながり、利用者の不利益にもなりかねないと考えています。

	ページ数	ご意見	事務局見解
I	10	ケアプランチェックは充実していると思います。	ありがとうございます。
J	11	もの忘れ検診受診率、0.3ポイントしか伸びていないが、課題と対応策の欄に「より認知度を高めていきたい」と記載があるが、具体的な取り組みについて明記してもらいたい。	今年度から2巡目に入るため、過去5年間よりは認知度は上がるものと考えています。検診期間の初め（7月）と最終月（10月）の町広報への掲載、対象者全員への通知、実施医療機関・公共施設への掲示を行います。
K	11	「ものわすれ検診」の実施の有効性は。大阪との隣接の地域特性をふまえた受診の施策が必要か。	検診を実施していただいている先生方からは、「他市町村では、専門病院が大病院であることが多く、医療に結びつくことにハードルが高いこともあるが、乙訓地域では、地区医師会で定期的にMMSEの実施方法の手順について研修を行っており、医療機関全体が認知症に取り組む姿勢が向上している」として評価をいただいています。 乙訓医師会への委託事業なので、乙訓以外にかかりつけ医を持つ方が受診に結びつきにくいといった課題はあります。
L	14	軽度認知症者の具体的な数字と医療や介護へつなぎ支援をした人の実際はいかがでしょうか。	認知症カフェに来られる方のうち医療や介護につないだ方はほとんどいらっしゃいません。（予算上は認知症カフェとなっていますが、その名前だと敬遠されるため、コミュニティカフェとして広報しています。）そのため、軽度認知症の方が参加しやすい小規模のカフェということで「わが家」を創設しました。
M	14	介護者の集いの参加者はどのくらいですか。	第1回「いったい介護にいくらかかるの？」 22名 第2回「一生おいしく食べて健康に！」 19名 第3回「歩行補助用具について」 13名 第4回「補聴器についてのお話」 中止 となっています。